

121

訪米阻止斗争総括シリウス

全市大の掌友諸君

11.3-14の訪米阻止斗争は、確かに訪米を許したもの、そこにおける積極面と否定面を指摘しない限り、今後の斗争は切口開けないとどうう。それ故、我々は以下に、この間の二

獲得物 その2
10.21斗争から佐ト勤米阻止斗争において、反安保賑民共斗を中心として、課題と基本戦術の一整に基づく行動の統一の原則によるヨイが、量的にも質的にも、60年安保斗争を上回る規模で実現されたことである。その内容とは、市町全電通の労働者がストライキでもつて決起したことに見られる如く、自らの生産点での、あるいは生活点でのヨイを意識とするものである。そして、その實質は闘争的行動を中心に、課題と基本戦術の一致に基づく行動の統一が、中央における社共共斗を上回る規模でヨイ抜かれたのである。このようないやうの質にこそ、それは確かに大敗の地でしかならぬといはれども、今後の70年代斗争をヨイとしたおいて不可欠のものであり、それ故にこそ、我々は、このヨイの質を全員なものとするべく、反安保賑民共斗の代表組織と共に、中安斗争に参画したのである。

獲得物 その3 以上の二つの獲得物は、70年更には70年代における反独占斗争を担うる暴力的競争形態としてあるだろう。それと共に我々学生戦線内にあって、二の間の斗争と、唯一大衆的、それ故實質的にヨイえた部隊が、全関西の地において、我全關西学生共斗として登場したことである。そして、先に掲げた二つの獲得物を目指して、労働者との連携を連帯を主張し、課題と基本戦術の一貫の下、行動の統一という原則的斗争が、展開されたのである。

全市工の学友讀書

を更に積極面を擧げ、それと最大限發展せること、二のヨリにわたり又十分長い。すな
むち、試みを阻止し、わがビックの獨創的力開拓と和華（エヌハ）ニ一と、そして、一、五西
の白日見主義の口座を許さないビックの、則然のヨリが、十二分に組合えはね、三等ノを克
用し、官保取扱、却程是田舎云節時全面追及、左ト内閣打仕に向付、當國の斗争を口頭し
よつて口向付。

佐藤訪米祖止学生安斗
史実行委